

②⑤心理・心的過程

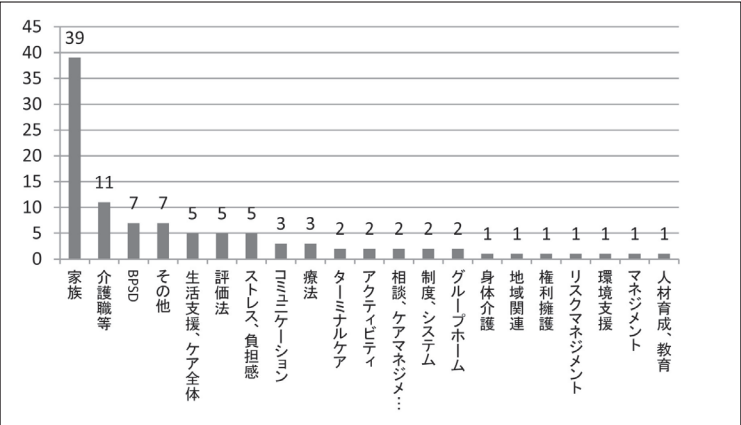
②⑤-1 他の研究内容との重複

心理・心理過程に関連する研究74件のうち重複している研究内容では、「家族」が最も多く39件(52.7%)となっており全体の半数を超えている。次いで「介護職等」が11件(14.9%)となっている。さらに、「BPSD」、「その他」がともに7件(9.5%)、「生活支援、ケア全体」、「評価法」、「ストレス、負担感」がそれぞれ5件(6.8%)と続いている。

表②⑤-1 他の研究内容との重複件数 (N=74)

研究内容分類	件数	重複割合 (%)
家族	39	52.70%
介護職等	11	14.90%
BPSD	7	9.50%
その他	7	9.50%
生活支援、ケア全体	5	6.80%
評価法	5	6.80%
ストレス、負担感	5	6.80%
コミュニケーション	3	4.10%
療法	3	4.10%
ターミナルケア	2	2.70%
アクティビティ	2	2.70%
相談、ケアマネジメント	2	2.70%
制度、システム	2	2.70%
グループホーム	2	2.70%
身体介護	1	1.40%
地域関連	1	1.40%
権利擁護	1	1.40%
リスクマネジメント	1	1.40%
環境支援	1	1.40%
マネジメント	1	1.40%
人材育成、教育	1	1.40%

図②⑤-1 他の研究内容との重複件数 (N=74)



②⑤-2 研究方法の傾向

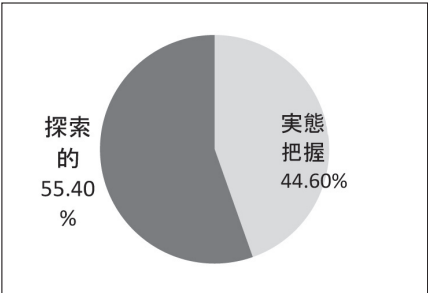
②⑤-2-1 研究タイプ1の傾向

心理・心理過程に関する研究74件における研究タイプ1別の件数及び比率は、「探索的研究」が41件(55.4%)であり、「実態把握研究」は33件(44.6%)となっている。「探索的研究」は全体の半数を超えている。

表②⑤-2-1 研究タイプ1

	件数	割合
実態把握	33	44.60%
探索的	41	55.40%
仮説検証型	0	0.00%
その他	0	0.00%
合計	74	100.00%

図②⑤-2-1 研究タイプ1



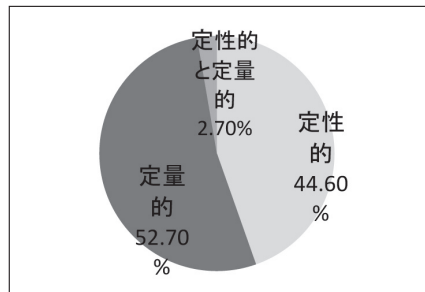
②⑤-2-2 研究タイプ2の傾向

心理・心理過程に関する研究74件における研究タイプ2別の件数及び比率は、「定量的研究」が39件(52.7%)であり、「定性的研究」は33件(44.6%)となっている。「定性的と定量的」は2件(2.7%)であった。「定量的研究」は全体の半数を超えている。

表②⑤-2-2 研究タイプ2

	件数	割合
定性的	33	44.60%
定量的	39	52.70%
定性的と定量的	2	2.70%
合計	74	100.00%

図②⑤-2-2 研究タイプ2



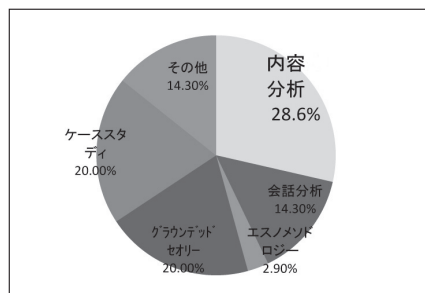
②⑤-2-3 定性的研究の種類

定性的研究を用いた研究35件のうち、「内容分析」が最も多く、10件(28.6%)となっている。次いで「グラウンデッドセオリー」、「ケーススタディ」がともに7件(20.0%)となっている。さらに「会話分析」、「その他」がともに5件(14.3%)となっている。

表②⑤-2-3 定性的研究の種類

	件数	割合
内容分析	10	28.60%
会話分析	5	14.30%
エスノメソドロジー	1	2.90%
グラウンデッドセオリー	7	20.00%
ケーススタディ	7	20.00%
その他	5	14.30%
合計	35	100.00%

図②⑤-2-3 定性的研究の種類



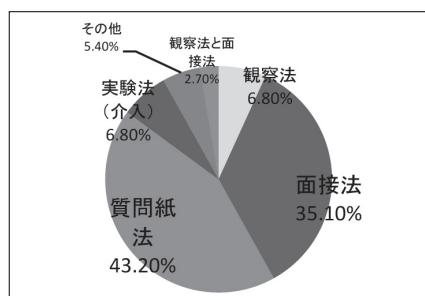
②⑤-2-4 研究方法の傾向

研究方法において、最も多いのは「質問紙法」であり、32件(43.2%)であり、次いで「面接法」が26件(35.1%)となっており、さらに「観察法」、「実験法(介入)」がそれぞれ5件(6.8%)となっている。

表②⑤-2-4 研究方法

	件数	割合
観察法	5	6.80%
面接法	26	35.10%
質問紙法	32	43.20%
実験法(介入)	5	6.80%
その他	4	5.40%
観察法と面接法	2	2.70%
観察法と質問紙法	0	0.00%
面接法と質問紙法	0	0.00%
面接法とその他の方法	0	0.00%
質問紙法と実験法(介入)	0	0.00%
観察法と面接法と質問紙法	0	0.00%
観察法と質問紙法とその他の方法	0	0.00%
合計	74	100.00%

図②⑤-2-4 研究方法



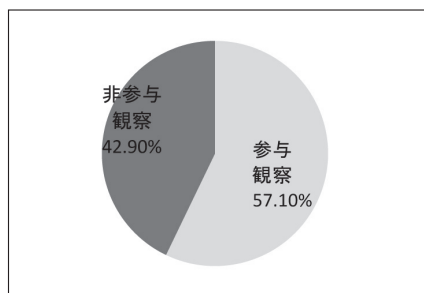
㊦-2-5 観察法の種類

観察法を用いた研究は7件で、その種類は「参与観察」が4件(57.1%)であり、「非参与観察」が3件(42.9%)であった。

表㊦-2-5観察法の種類

	件数	割合
参与観察	4	57.10%
非参与観察	3	42.90%
その他	0	0.00%
合計	7	100.00%

図㊦-2-5観察法の種類



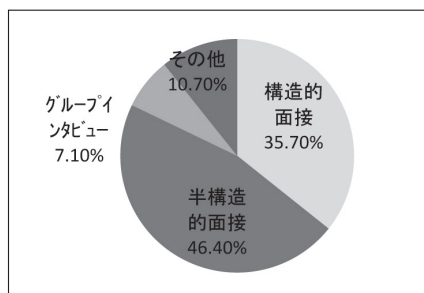
㊦-2-6 面接法の種類

面接法を用いた研究は28件で、その種類は「半構造的面接」が13件(46.4%)で最も多く、次いで、「構造的面接」が10件(35.7%)であり、さらに、「その他」が3件(10.7%)、「グループインタビュー」が2件(7.1%)となっている。

表㊦-2-6 面接法の種類

	件数	割合
構造的面接	10	35.70%
半構造的面接	13	46.40%
グループインタビュー	2	7.10%
その他	3	10.70%
合計	28	100.00%

図㊦-2-6 面接法の種類



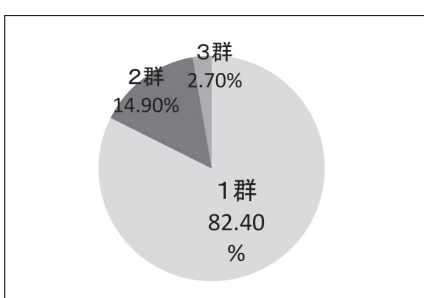
㊦-2-7 対象群数の傾向

対象群数において、「1群」が61件(82.4%)となっており、多くが「1群」となっている。次いで「2群」が11件(14.9%)となっている。さらに、「3群」が2件(2.7%)となっている。

表㊦-2-7 対象群数

	件数	割合
1群	61	82.40%
2群	11	14.90%
3群	2	2.70%
4群	0	0.00%
合計	74	100.00%

図㊦-2-7 対象群数



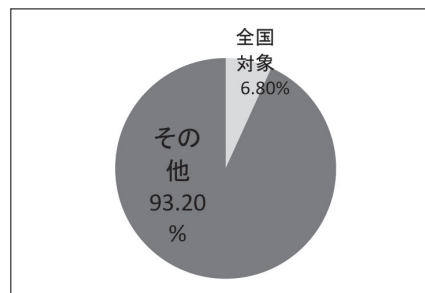
㊸-2-8 対象範囲の傾向

対象範囲については「全国対象」が5件(6.8%)であり、「その他」が69件(93.2%)だった。ほとんどの研究が「その他」であった。

表㊸-2-8 対象範囲

	件数	割合
全国対象	5	6.80%
その他	69	93.20%
合計	74	100.00%

図㊸-2-8 対象範囲



㊸-2-9 研究方法の基本属性に関する傾向

心理・心理過程の研究において、実施期間の平均は46件中、156.15日であり、研究地域数の平均は52件中、1.33地域となっている。事業所数の平均は43件中、16.44事業所となっており、対象者人数の平均は73件中、233.37人となっている。

表㊸-2-9 研究方法の基本属性に関する平均値

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
実施期間 (日)	46	1	1410	156.15	245.37
研究地域数	52	1	4	1.33	0.81
事業所数	43	1	300	16.44	50.182
対象者人数 (人)	73	3	3888	233.37	610.027

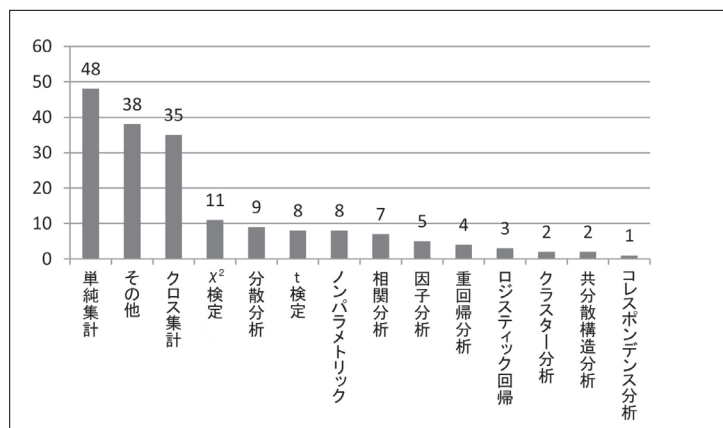
㊸-2-10 分析方法の件数

分析方法の件数は、「単純集計」が48件(64.9%)で最も多く、次いで「その他」が38件(51.4%)であり、さらに「クロス集計」が35件(47.3%)であった。「 χ^2 検定」が11件(14.9%)、「分散分析」が9件(12.2%)、「t検定」、「ノンパラメトリック」がそれぞれ8件(10.8%)と続いている。

表㊸-2-10 分析方法の件数 (N=74)

研究内容	件数	重複割合 (%)
単純集計	48	64.90%
その他	38	51.40%
クロス集計	35	47.30%
χ^2 検定	11	14.90%
分散分析	9	12.20%
t検定	8	10.80%
ノンパラメトリック	8	10.80%
相関分析	7	9.50%
因子分析	5	6.80%
重回帰分析	4	5.40%
ロジスティック回帰	3	4.10%
クラスター分析	2	2.70%
共分散構造分析	2	2.70%
コレスポンデンス分析	1	1.40%

図㊸-2-10 分析方法の件数 (N=74)



②⑤ - 3 対象者属性の傾向

②⑤ - 3 - 1 平均年齢

平均年齢の傾向としては、58件の対象者の平均値は66.511歳であり、標準偏差は15.2555歳、最大値は86.0歳、最小値は23.0歳であった。

表②⑤ -3-1 平均年齢

	平均値	度数	標準偏差	最小値	最大値
心理、心的過程	66.511	58	15.2555	23.0	86.0

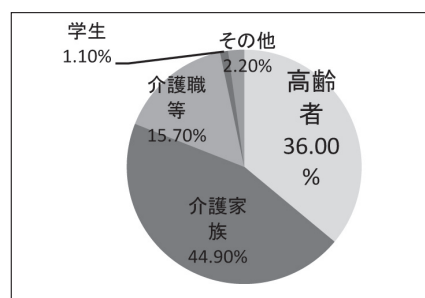
②⑤ - 3 - 2 対象者属性の傾向

対象者属性について、「介護家族」が最も多く、40件(44.9%)であり、次いで「高齢者」が32件(36.0%)、「介護職等」が14件(15.7%)、「その他」が2件(2.2%)、「学生」が1件(1.1%)となっている。

表②⑤ -3-2 対象者属性

	高齢者	介護家族	介護職等	学生	その他	合計
件数	32	40	14	1	2	89
割合	36.00%	44.90%	15.70%	1.10%	2.20%	100.00%

図②⑤ -3-2 対象者属性



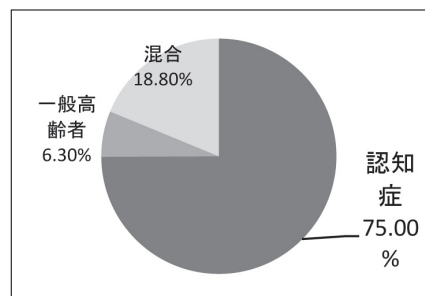
②⑤ - 3 - 3 高齢者属性の傾向

対象者属性が高齢者である32件の中で、高齢者属性は「認知症」が最も多く24件(75.0%)である。次いで、「混合」が6件(18.8%)、「一般高齢者」が2件(6.3%)となっている。

表②⑤ -3-3 高齢者属性

	認知症	要介護高齢者	一般高齢者	混合	合計
件数	24	0	2	6	32
割合	75.00%	0.00%	6.30%	18.80%	100.00%

図②⑤ -3-3 高齢者属性



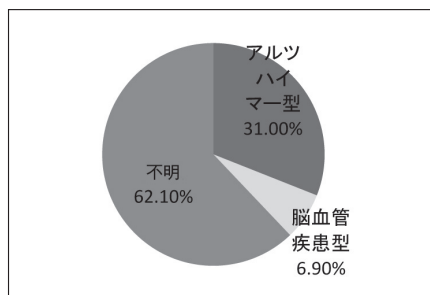
㊸-3-4 認知症種類の傾向

認知症の種類について、「不明」が最も多く18件（62.1％）であり、次いで、「アルツハイマー型」が9件（31.0％）であり、さらに、「脳血管疾患型」が2件（6.9％）となっている。

表㊸-3-4 認知症種類

	アルツハイマー型	脳血管疾患型	レビー小体型	前頭側頭型 (ピック)	不明	その他	合計
件数	9	2	0	0	18	0	29
割合	31.00%	6.90%	0.00%	0.00%	62.10%	0.00%	100.00%

図㊸-3-4 認知症種類



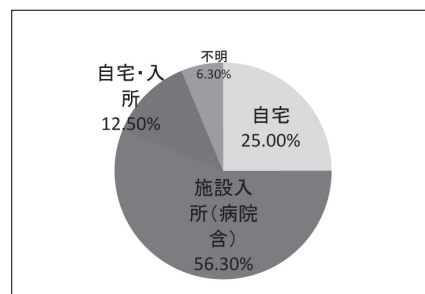
㊸-3-5 所在の傾向

所在については、最も多いのは「施設入所（病院含）」であり、18件で、56.3％となっており全体の半数を占めている。次いで「自宅」8件（25.0％）であり、さらに、「自宅・施設」が4件（12.5％）、「不明」が2件（6.3％）となっている。

表㊸-3-5 所在

	自宅	施設入所 (病院含)	その他	自宅・施設	不明	合計
件数	8	18	0	4	2	32
割合	25.00%	56.30%	0.00%	12.50%	6.30%	100.00%

図㊸-3-5 所在



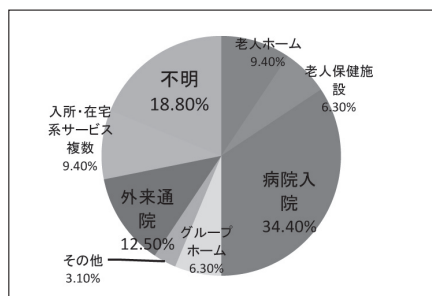
㊦-3-6 利用サービスの傾向

利用サービスについての傾向は、「病院入院」が11件(34.4%)と多く、さらに「不明」が6件(18.8%)、「外来通院」が4件(12.5%)と続いている。

表㊦-3-6 利用サービス

	ヘルパー	デイサービス	デイケア	小規模多機能	老人ホーム	老人保健施設	病院入院	
件数	0	0	0	0	3	2	11	
割合	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	9.40%	6.30%	34.40%	
	グループホーム	その他	外来通院	入所系サービス 複数利用	在宅系サービス 複数利用	入所・在宅系サ ービス複数利用	不明	合計
	2	1	4	0	0	3	6	32
	6.30%	3.10%	12.50%	0.00%	0.00%	9.40%	18.80%	100.00%

図㊦-3-6 利用サービス



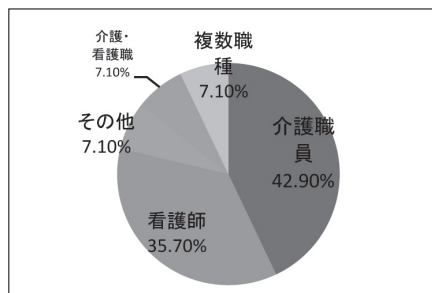
㊦-3-7 職員種別の傾向

職員種別について、「介護職員」が最も多く、6件(42.9%)であり、次いで「看護師」が5件(35.7%)と続いている。

表㊦-3-7 職員種別

	介護職員	ケアマネ	看護師	医師	相談員	ホームヘルパー	その他
件数	6	0	5	0	0	0	1
割合	42.90%	0.00%	35.70%	0.00%	0.00%	0.00%	7.10%
	介護・看護職	複数職種	合計				
	1	1	14				
	7.10%	7.10%	100.00%				

図㊦-3-7 職員種別



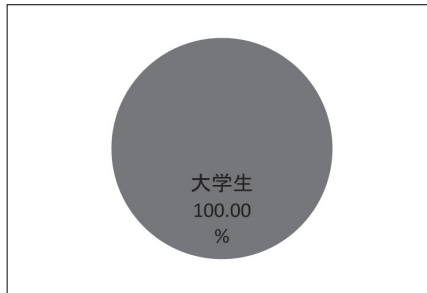
㊸-3-8 学生種別の傾向

研究の内容について学生があるのは1件のみであり、種別は「大学生」である。

表㊸-3-8 学生種別

	大学生	専門学校・ 短大生	高校生	中学生	小学生	その他	合計
件数	1	0	0	0	0	0	1
割合	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%

図㊸-3-8 学生種別



②⑥ ストレス、負担感

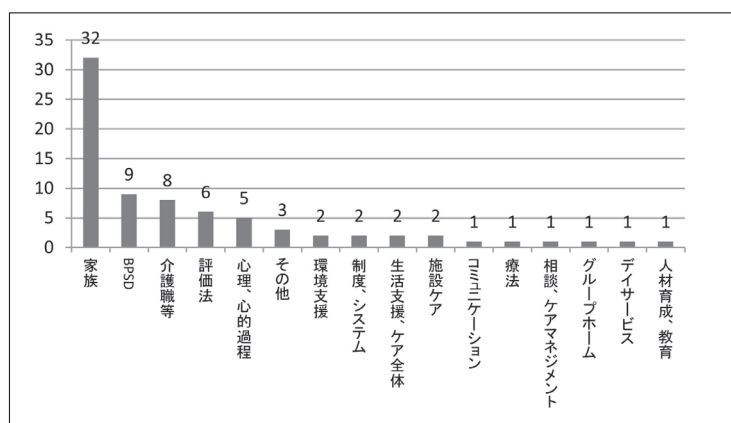
②⑥-1 他の研究内容との重複

ストレス、負担感に関連する研究45件のうち重複している研究内容では、「家族」が最も多く32件(71.1%)である。次いで「BPSD」が9件(20.0%)となっている。さらに、「介護職等」が8件(17.8%)、「評価法」が6件(13.3%)、「心理、心的過程」が5件(11.1%)と続いている。

表②⑥-1 他の研究内容との重複件数 (N=45)

研究内容分類	件数	重複割合 (%)
家族	32	71.10%
BPSD	9	20.00%
介護職等	8	17.80%
評価法	6	13.30%
心理、心的過程	5	11.10%
その他	3	6.70%
環境支援	2	4.40%
制度、システム	2	4.40%
生活支援、ケア全体	2	4.40%
施設ケア	2	4.40%
コミュニケーション	1	2.20%
療法	1	2.20%
相談、ケアマネジメント	1	2.20%
グループホーム	1	2.20%
デイサービス	1	2.20%
人材育成、教育	1	2.20%

図②⑥-1 他の研究内容との重複件数 (N=45)



②⑥-2 研究方法の傾向

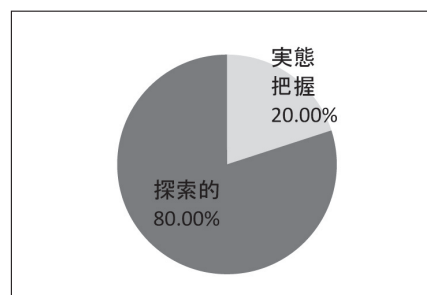
②⑥-2-1 研究タイプ1の傾向

ストレス、負担感に関する研究45件における研究タイプ1別の件数及び比率は、「探索的研究」が36件(80.0%)であり、「実態把握研究」は9件(20.0%)となっている。「探索的研究」は全体の8割を占めている。

表②⑥-2-1 研究タイプ1

	件数	割合
実態把握	9	20.00%
探索的	36	80.00%
仮説検証型	0	0.00%
その他	0	0.00%
合計	45	100.00%

図②⑥-2-1 研究タイプ1



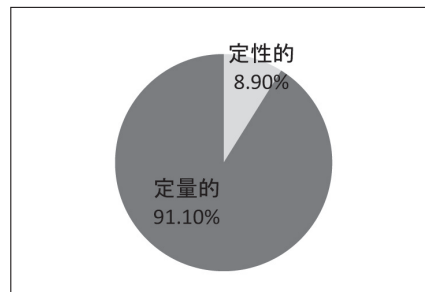
②⑥-2-2 研究タイプ2の傾向

ストレス、負担感に関する研究45件における研究タイプ2別の件数及び比率は、「定量的研究」が41件(91.1%)であり、「定性的研究」は4件(8.9%)となっている。「定量的研究」は全体の9割を超えている。

表②⑥-2-2研究タイプ2

	件数	割合
定性的	4	8.90%
定量的	41	91.10%
定性的と定量的	0	0.00%
合計	45	100.00%

図②⑥-2-2研究タイプ2



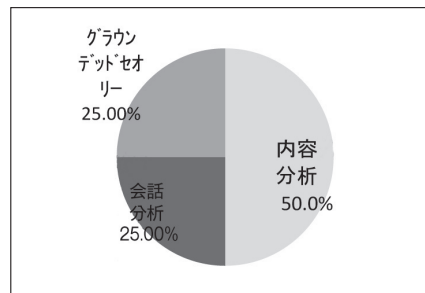
②⑥-2-3 定性的研究の種類

定性的研究を用いた研究4件のうち、「内容分析」が最も多く、2件(50.0%)となっている。次いで「会話分析」、「グラウンデッドセオリー」がともに1件(25.0%)となっている。他の定性的研究種類はなかった。

表②⑥-2-3 定性的研究の種類

	件数	割合
内容分析	2	50.00%
会話分析	1	25.00%
エスノメソドロジー	0	0.00%
グラウンデッドセオリー	1	25.00%
ケーススタディ	0	0.00%
その他	0	0.00%
合計	4	100.00%

図②⑥-2-3 定性的研究の種類



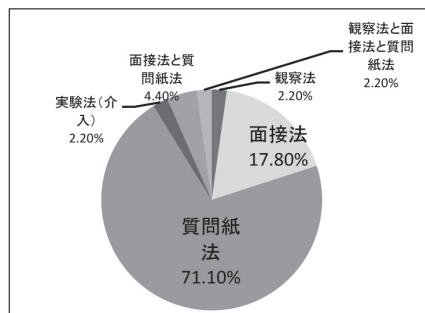
②⑥-2-4 研究方法の傾向

研究方法において、最も多いのは「質問紙法」32件(71.1%)であり、次いで「面接法」が8件(17.8%)となっており、さらに「面接法と質問紙法」が2件(4.4%)、「観察法」、「実験法(介入)」、「観察法と面接法と質問紙法」がそれぞれ1件(2.2%)となっている。

表②⑥-2-4 研究方法

	件数	割合
観察法	1	2.20%
面接法	8	17.80%
質問紙法	32	71.10%
実験法(介入)	1	2.20%
その他	0	0.00%
観察法と面接法	0	0.00%
観察法と質問紙法	0	0.00%
面接法と質問紙法	2	4.40%
面接法とその他の方法	0	0.00%
質問紙法と実験法(介入)	0	0.00%
観察法と面接法と質問紙法	1	2.20%
観察法と質問紙法とその他の方法	0	0.00%
合計	45	100.00%

図②⑥-2-4 研究方法



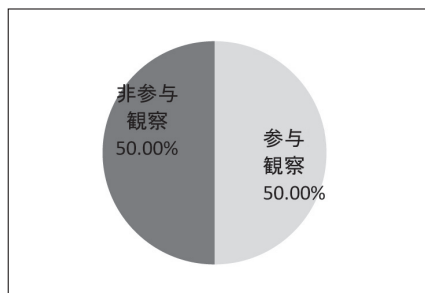
②⑥-2-5 観察法の種類

観察法を用いた研究は2件で、その種類は「参与観察」、「非参与観察」がともに1件(50.0%)であった。

表②⑥-2-5 観察法の種類

	件数	割合
参与観察	1	50.00%
非参与観察	1	50.00%
その他	0	0.00%
不明	0	0.00%
合計	2	100.00%

図②⑥-2-5 観察法の種類



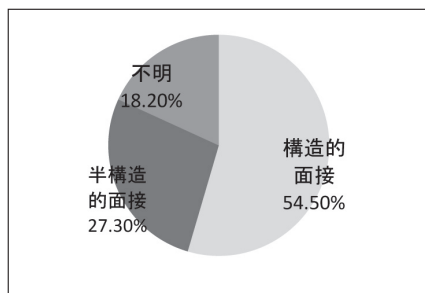
②⑥-2-6 面接法の種類

面接法を用いた研究は11件で、その種類は「構造的面接」が6件(54.5%)で最も多く、次いで、「半構造的面接」が3件(27.3%)であり、さらに、「不明」が2件(18.2%)となっている。

表②⑥-2-6 面接法の種類

	件数	割合
構造的面接	6	54.50%
半構造的面接	3	27.30%
グループインタビュー	0	0.00%
その他	0	0.00%
不明	2	18.20%
合計	11	100.00%

図②⑥-2-6 面接法の種類



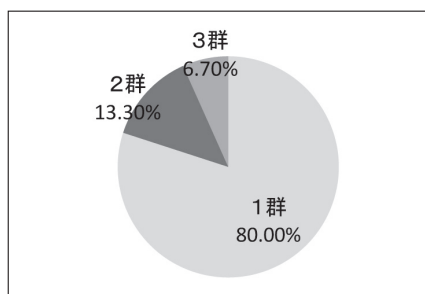
②⑥-2-7 対象群数の傾向

対象群数において、「1群」が36件(80.0%)となっており、全体の8割が「1群」となっている。次いで「2群」が6件(13.3%)となっている。さらに、「3群」が3件(6.7%)となっている。

表②⑥-2-7 対象群数

	件数	割合
1群	36	80.00%
2群	6	13.30%
3群	3	6.70%
4群	0	0.00%
合計	45	100.00%

図②⑥-2-7 対象群数



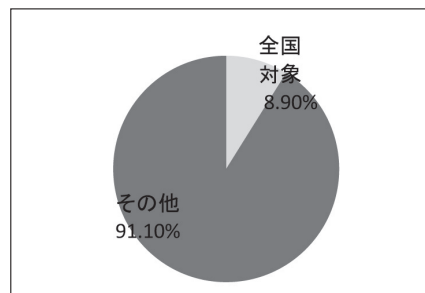
②⑥-2-8 対象範囲の傾向

対象範囲については「全国対象」が4件(8.9%)であり、「その他」が41件(91.1%)だった。ほとんどの研究が「その他」であった。

表②⑥-2-8 対象範囲

	件数	割合
全国対象	4	8.90%
その他	41	91.10%
合計	45	100.00%

図②⑥-2-8 対象範囲



②⑥-2-9 研究方法の基本属性に関する傾向

ストレス、負担感の研究において、実施期間の平均は31件中、195.35日であり、研究地域数の平均は32件中、1.28地域となっている。事業所数の平均は25件中、10.76事業所となっており、対象者人数の平均は44件中、291.52人となっている。

表②⑥-2-9 研究方法の基本属性に関する平均値

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
実施期間 (日)	31	1	2520	195.35	453.079
研究地域数	32	1	4	1.28	0.729
事業所数	25	1	126	10.76	25.856
対象者人数 (人)	44	1	3888	291.52	629.472

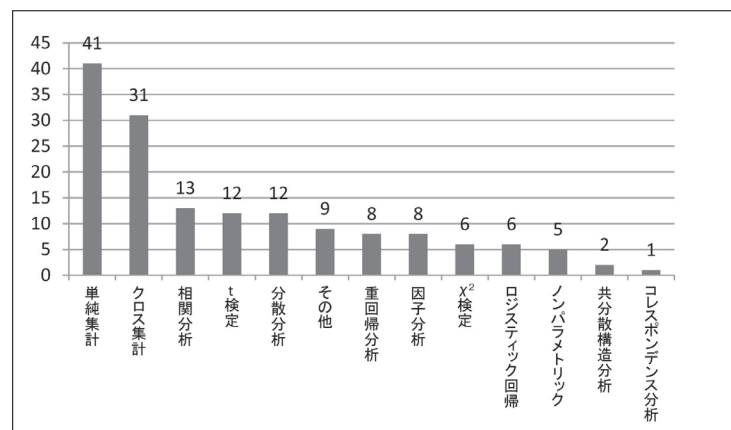
②⑥-2-10 分析方法の件数

分析方法の件数は、「単純集計」が41件(91.1%)で最も多く、次いで「クロス集計」が31件(68.9%)であり、さらに「相関分析」が13件(28.9%)であった。「t検定」、「分散分析」が12件(26.7%)、「その他」が9件(20.0%)「重回帰分析」、「因子分析」がともに8件(17.8%)と続いている。

表②⑥-2-10 分析方法の件数 (N=45)

研究内容	件数	重複割合 (%)
単純集計	41	91.10%
クロス集計	31	68.90%
相関分析	13	28.90%
t検定	12	26.70%
分散分析	12	26.70%
その他	9	20.00%
重回帰分析	8	17.80%
因子分析	8	17.80%
χ^2 検定	6	13.30%
ロジスティック回帰	6	13.30%
ノンパラメトリック	5	11.10%
共分散構造分析	2	4.40%
コレスポンデンス分析	1	2.20%

図②⑥-2-10 分析方法の件数 (N=45)



②⑥ - 3 対象者属性の傾向

②⑥ - 3 - 1 平均年齢

平均年齢の傾向としては、4件の対象者の平均年齢は61.206歳であり、標準偏差は11.9560歳、最大値は82.3歳、最小値は30.2歳であった。

表②⑥ -3-1 平均年齢

	平均値	度数	標準偏差	最小値	最大値
ストレス、負担感	61.200	41	11.9560	30.2	82.3

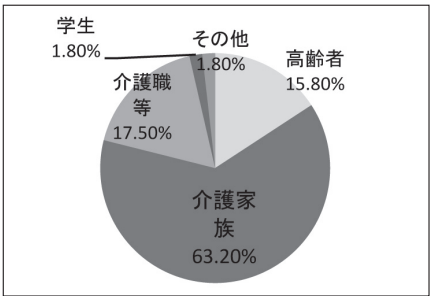
②⑥ - 3 - 2 対象者属性の傾向

対象者属性について、「介護家族」が最も多く、36件(63.2%)であり、次いで「介護職業」が10件(17.5%)、「高齢者」が9件(15.8%)、「学生」、「その他」がともに1件(1.8%)となっている。

表②⑥ -3-2 対象者属性

	高齢者	介護家族	介護職等	学生	その他	合計
件数	9	36	10	1	1	57
割合	15.80%	63.20%	17.50%	1.80%	1.80%	100.00%

図②⑥ -3-2 対象者属性



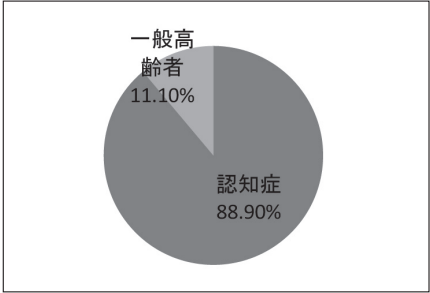
②⑥ - 3 - 3 高齢者属性の傾向

対象者属性が高齢者である9件の中で、高齢者属性は「認知症」が最も多く8件(88.9%)である。次いで、「一般高齢者」が1件(11.1%)となっている。

表②⑥ -3-3 高齢者属性

	認知症	要介護高齢者	一般高齢者	混合	合計
件数	8	0	1	0	9
割合	88.90%	0.00%	11.10%	0.00%	100.00%

図②⑥ -3-3 高齢者属性



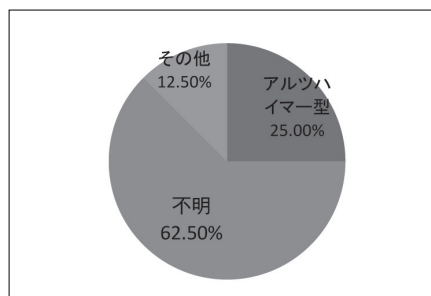
㊦-3-4 認知症種類の傾向

認知症の種類について、「不明」が最も多く5件(62.5%)であり、次いで、「アルツハイマー型」が2件(25.0%)であり、さらに、「その他」が1件(12.5%)となっている。

表㊦-3-4 認知症種類

	アルツハイマー型	脳血管疾患型	レビー小体型	前頭側頭型 (ピック)	不明	その他	合計
件数	2	0	0	0	5	1	8
割合	25.00%	0.00%	0.00%	0.00%	62.50%	12.50%	100.00%

図㊦-3-4 認知症種類



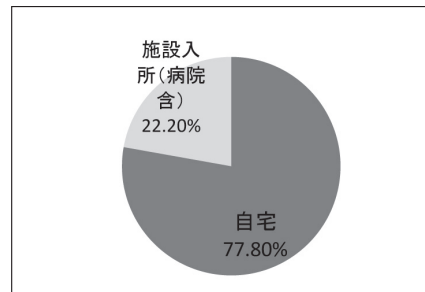
㊦-3-5 所在の傾向

所在については、最も多いのは「自宅」であり、7件で、77.8%となっており全体の3/4を超えている。次いで「施設入所(病院含)」2件(22.2%)となっている。

表㊦-3-5 所在

	自宅	施設入所 (病院含)	その他	自宅・施設	不明	合計
件数	7	2	0	0	0	9
割合	77.80%	22.20%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%

図㊦-3-5 所在



㊼-3-6 利用サービスの傾向

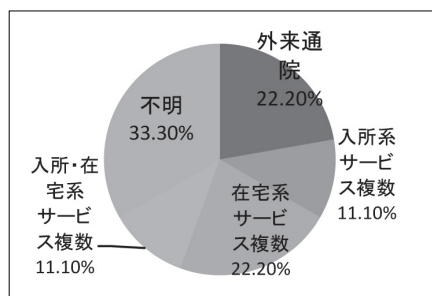
利用サービスについての傾向は、「不明」が3件（33.3%）、「外来通院」、「在宅系サービス複数利用」がともに2件（22.2%）であり、さらに「入所系サービス複数利用」、「入所・在宅系複数利用」が1件（11.1%）となっている。

表㊼-3-6 利用サービス

	ヘルパー	デイサービス	デイケア	小規模多機能	老人ホーム	老人保健施設	病院入院
件数	0	0	0	0	0	0	0
割合	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

グループホーム	その他	外来通院	入所系サービス 複数利用	在宅系サービス 複数利用	入所・在宅系サー ビス複数利用	不明	合計
0	0	2	1	2	1	3	9
0.00%	0.00%	22.20%	11.10%	22.20%	11.10%	33.30%	100.00%

図㊼-3-6 利用サービス



㊼-3-7 職員種別の傾向

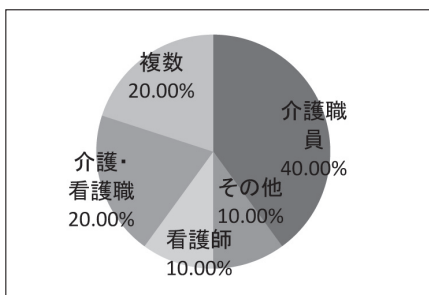
職員種別について、「介護職員」が最も多く、4件（40.0%）であり、次いで「介護・看護職」、「複数職種」が2件（20.0%）と続いている。

表㊼-3-7 職員種別

	介護職員	ケアマネ	看護師	医師	相談員	ホームヘルパー	その他
件数	4	0	1	0	0	0	1
割合	40.00%	0.00%	10.00%	0.00%	0.00%	0.00%	10.00%

介護・看護職	複数職種	合計
2	2	10
20.00%	20.00%	100.00%

図㊼-3-7 職員種別



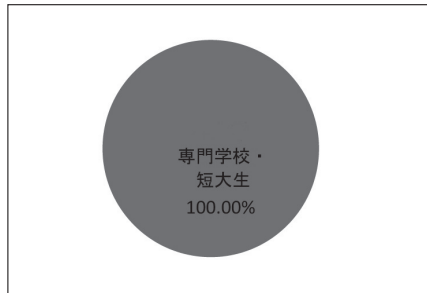
㊼-3-8 学生種別の傾向

研究の内容について学生があるのは1件のみであり、種別は「専門学校・短大生」である。

表㊼-3-8 学生種別

	大学	専門学校・ 短大生	高校生	中学生	小学生	その他	合計
件数	0	1	0	0	0	0	1
割合	0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%

図㊼-3-8 学生種別



②⑦その他

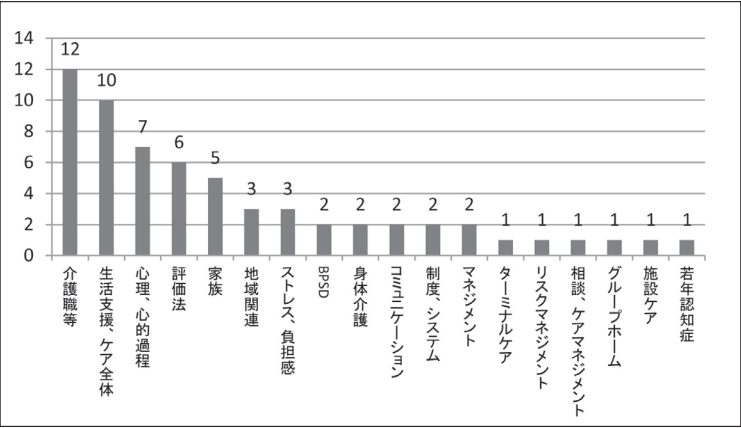
②⑦-1 他の研究内容との重複

その他に関連する研究43件のうち重複している研究内容では、「介護職等」が最も多く12件(27.9%)である。次いで「生活支援、ケア全体」が10件(23.3%)となっている。さらに、「心理、心的過程」が7件(16.3%)、「評価法」が6件(14.0%)と続いている。

表②⑦-1 他の研究内容との重複件数 (N=43)

研究内容分類	件数	重複割合 (%)
介護職等	12	27.90%
生活支援、ケア全体	10	23.30%
心理、心的過程	7	16.30%
評価法	6	14.00%
家族	5	11.60%
地域関連	3	7.00%
ストレス、負担感	3	7.00%
BPSD	2	4.70%
身体介護	2	4.70%
コミュニケーション	2	4.70%
制度、システム	2	4.70%
マネジメント	2	4.70%
ターミナルケア	1	2.30%
リスクマネジメント	1	2.30%
相談、ケアマネジメント	1	2.30%
グループホーム	1	2.30%
施設ケア	1	2.30%
若年認知症	1	2.30%

図②⑦-1 他の研究内容と重複件数 (N=43)



②⑦-2 研究方法の傾向

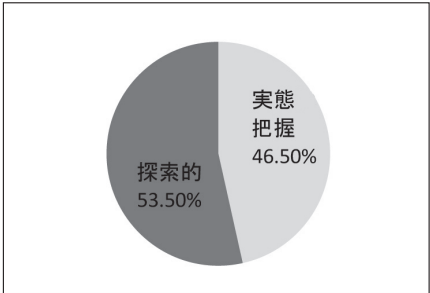
②⑦-2-1 研究タイプ1の傾向

その他に関する研究43件における研究タイプ1別の件数及び比率は、「探索的研究」が23件(53.5%)であり、「実態把握研究」は20件(46.5%)となっている。「探索的研究」は全体の半数を超えている。

表②⑦-2-1 研究タイプ1

	件数	割合
実態把握	20	46.50%
探索的	23	53.50%
仮説検証型	0	0.00%
その他	0	0.00%
合計	43	100.00%

図②⑦-2-1 研究タイプ1



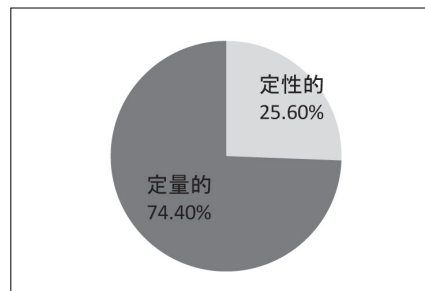
②⑦-2-2 研究タイプ2の傾向

その他に関する研究43件における研究タイプ2別の件数及び比率は、「定量的研究」が32件(74.4%)であり、「定性的研究」は11件(25.6%)となっている。「定量的研究」は全体の3/4程度となっている。

表②⑦-2-2 研究タイプ2

	件数	割合
定性的	11	25.60%
定量的	32	74.40%
定性的と定量的	0	0.00%
合計	43	100.00%

図②⑦-2-2 研究タイプ2



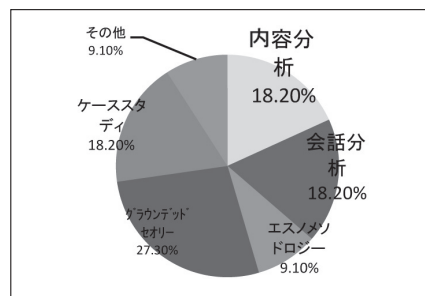
②⑦-2-3 定性的研究の種類

定性的研究を用いた研究11件のうち、「グラウンデッドセオリー」が最も多く、3件(27.3%)となっている。次いで「内容分析」、「会話分析」、「ケーススタディ」がそれぞれ2件(18.2%)となっている。

表②⑦-2-3 定性的研究の種類

	件数	割合
内容分析	2	18.20%
会話分析	2	18.20%
エスノメソドロジー	1	9.10%
グラウンデッドセオリー	3	27.30%
ケーススタディ	2	18.20%
その他	1	9.10%
合計	11	100.00%

図②⑦-2-3 定性的研究の種類



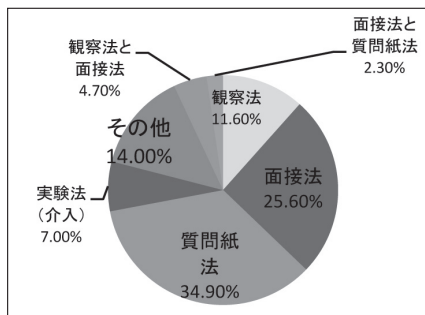
②⑦-2-4 研究方法の傾向

研究方法において、最も多いのは「質問紙法」であり、15件(34.9%)であり、次いで「面接法」が11件(25.6%)となっており、さらに「その他」が6件(14.0%)、「観察法」が5件(11.6%)と続いている。

表②⑦-2-4 研究方法

	件数	割合
観察法	5	11.60%
面接法	11	25.60%
質問紙法	15	34.90%
実験法(介入)	3	7.00%
その他	6	14.00%
観察法と面接法	2	4.70%
観察法と質問紙法	0	0.00%
面接法と質問紙法	1	2.30%
面接法とその他の方法	0	0.00%
質問紙法と実験法(介入)	0	0.00%
観察法と面接法と質問紙法	0	0.00%
観察法と質問紙法とその他の方法	0	0.00%
合計	43	100.00%

図②⑦-2-4 研究方法



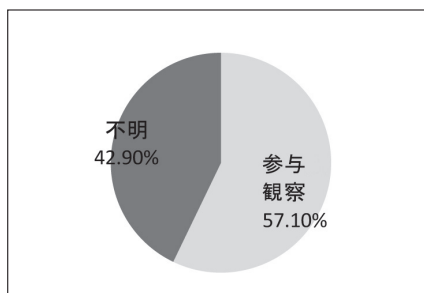
㊦-2-5 観察法の種類

観察法を用いた研究は7件で、その種類は「参与観察」が4件(57.1%)であり、「非参与観察」が3件(42.9%)であった。

表㊦-2-5 観察法の種類

	件数	割合
参与観察	4	57.10%
非参与観察	3	42.90%
その他	0	0.00%
合計	7	100.00%

図㊦-2-5 観察法の種類



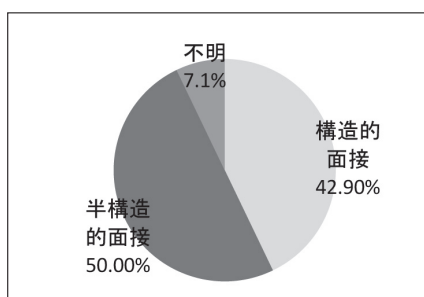
㊦-2-6 面接法の種類

面接法を用いた研究は14件で、その種類は「半構造的面接」が7件(50.0%)で最も多く、次いで、「構造的面接」が6件(42.9%)であり、さらに、「不明」が1件(7.1%)となっている。

表㊦-2-6 面接法の種類

	件数	割合
構造的面接	6	42.90%
半構造的面接	7	50.00%
グループインタビュー	0	0.00%
その他	0	0.00%
不明	1	7.10%
合計	14	100.00%

図㊦-2-6 面接法の種類



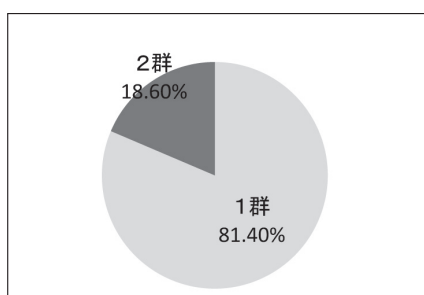
㊦-2-7 対象群数の傾向

対象群数において、「1群」が35件(81.4%)となっており、全体の8割超が「1群」となっている。次いで「2群」が8件(18.6%)となっている。他の群数はなかった。

表㊦-2-7 対象群数

	件数	割合
1群	35	81.40%
2群	8	18.60%
3群	0	0.00%
4群	0	0.00%
合計	43	100.00%

図㊦-2-7 対象群数



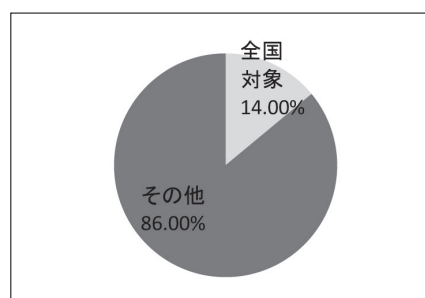
㉗-2-8 対象範囲の傾向

対象範囲については「全国対象」が6件(14.0%)であり、「その他」が37件(86.0%)だった。ほとんどの研究が「その他」であった。

表㉗-2-8 対象範囲

	件数	割合
全国対象	6	14.00%
その他	37	86.00%
合計	43	100.00%

図㉗-2-8 対象範囲



㉗-2-9 研究方法の基本属性に関する傾向

その他の研究において、実施期間の平均は26件中、352.77日であり、研究地域数の平均は25件中、2.72地域となっている。事業所数の平均は28件中、138.07事業所となっており、対象者人数の平均は42件中、526185.10人となっている。

表㉗-2-9 研究方法の基本属性に関する平均値

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
実施期間 (日)	26	1	2550	352.77	668.071
研究地域数	25	1	37	2.72	7.243
事業所数	28	1	3557	138.07	670.459
対象者人数 (人)	42	1	22074815	526185.10	3406124.613

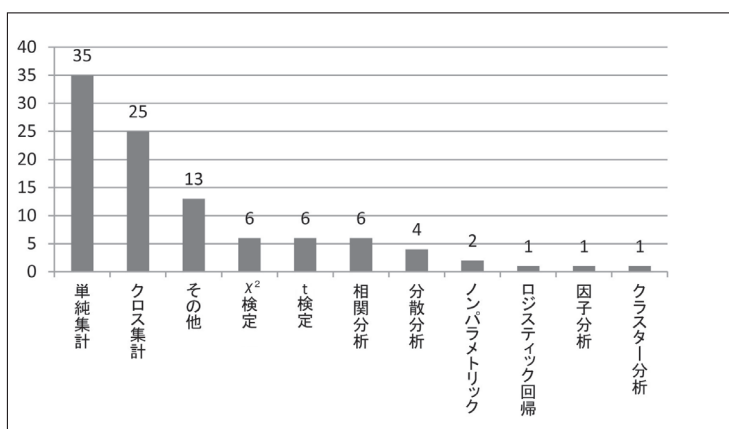
㉗-2-10 分析方法の件数

分析方法の件数は、「単純集計」が35件(81.4%)で最も多く、次いで「クロス集計」が25件(58.1%)であり、さらに「その他」が13件(30.2%)であった。「 χ^2 検定」、「t検定」がともに6件(14.0%)、「分散分析」が4件(9.3%)と続いている。

表㉗-2-10 分析方法の件数 (N=43)

研究内容	件数	重複割合 (%)
単純集計	35	81.40%
クロス集計	25	58.10%
その他	13	30.20%
χ^2 検定	6	14.00%
t検定	6	14.00%
相関分析	6	14.00%
分散分析	4	9.30%
ノンパラメトリック	2	4.70%
ロジスティック回帰	1	2.30%
因子分析	1	2.30%
クラスター分析	1	2.30%

図㉗-2-10 分析方法の件数 (N=43)



②⑦ - 3 対象者属性の傾向

②⑦ - 3 - 1 平均年齢

平均年齢の傾向としては、32件の対象者の平均年齢は70.641歳であり、標準偏差は16.8680歳、最大値は92.0歳、最小値は33.5歳であった。

表②⑦ - 3 - 1 平均年齢

	平均値	度数	標準偏差	最小値	最大値
その他	70.641	32	16.8680	33.5	92.0

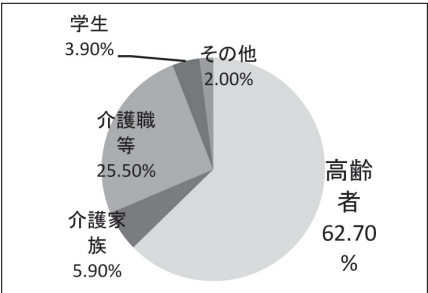
②⑦ - 3 - 2 対象者属性の傾向

対象者属性について、「高齢者」が最も多く、32件(62.7%)であり、次いで「介護職等」が13件(25.5%)、「介護家族」が3件(5.9%)、「学生」が2件(3.9%)、「その他」が1件(2.0%)となっている。

表②⑦ - 3 - 2 対象者属性

	高齢者	介護家族	介護職等	学生	その他	合計
件数	32	3	13	2	1	51
割合	62.70%	5.90%	25.50%	3.90%	2.00%	100.00%

図②⑦ - 3 - 2 対象者属性



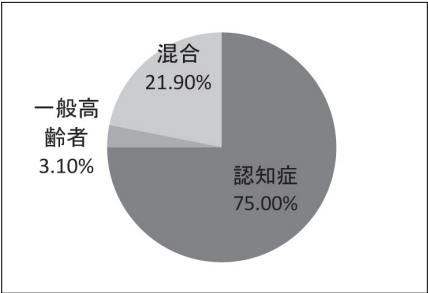
②⑦ - 3 - 3 高齢者属性の傾向

対象者属性が高齢者である32件の中で、高齢者属性は「認知症」が最も多く24件(75.0%)である。次いで、「混合」が7件(21.9%)、「一般高齢者」が1件(3.1%)となっている。

表②⑦ - 3 - 3 高齢者属性

	認知症	要介護高齢者	一般高齢者	混合	合計
件数	24	0	1	7	32
割合	75.00%	0.00%	3.10%	21.90%	100.00%

図②⑦ - 3 - 3 高齢者属性



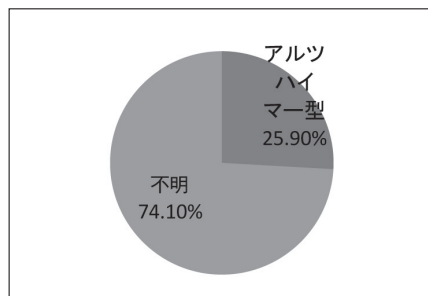
㉗-3-4 認知症種類の傾向

認知症の種類について、「不明」が最も多く20件(74.1%)であり、次いで、「アルツハイマー型」が7件(25.9%)であった。他の種類はなかった。

表㉗-3-4 認知症種類

	アルツハイマー型	脳血管疾患型	レビー小体型	前頭側頭型(ピック)	不明	その他	合計
件数	7	0	0	0	20	0	27
割合	25.90%	0.00%	0.00%	0.00%	74.10%	0.00%	100.00%

図㉗-3-4 認知症種類



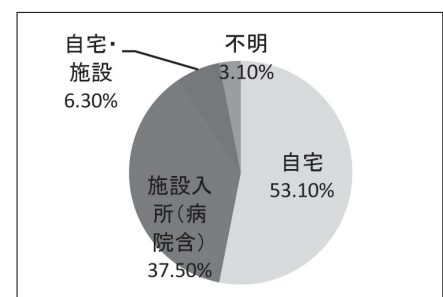
㉗-3-5 所在の傾向

所在については、最も多いのは「自宅」であり、17件で、53.1%となっており全体の半数を超えている。次いで「施設入所(病院含)」が12件(37.5%)となっている。

表㉗-3-5 所在

	自宅	施設入所(病院含)	その他	自宅・施設	不明	合計
件数	17	12	0	2	1	32
割合	53.10%	37.50%	0.00%	6.30%	3.10%	100.00%

図㉗-3-5 所在



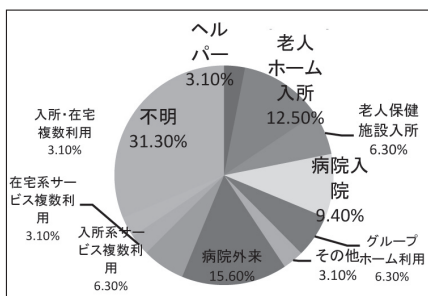
㊦-3-6 利用サービスの傾向

利用サービスについての傾向は、「外来通院」が5件(15.6%)で最も多く、さらに「老人ホーム」が4件(12.5%)であり、さらに「病院入院」が3件(9.4%)と続いている。

表㊦-3-6 利用サービス

	ヘルパー	デイサービス	デイケア	小規模多機能	老人ホーム	老人保健施設	病院入院	
件数	1	0	0	0	4	2	3	
割合	3.10%	0.00%	0.00%	0.00%	12.50%	6.30%	9.40%	
	グループホーム	その他	外来通院	入所系サービス 複数利用	在宅系サービス 複数利用	入所・在宅サー ビス複数利用	不明	合計
	2	1	5	2	1	1	10	32
	6.30%	3.10%	15.60%	6.30%	3.10%	3.10%	31.30%	100.00%

図㊦-3-6 利用サービス



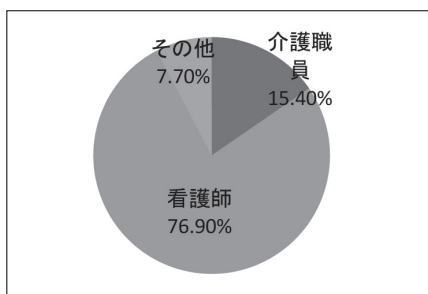
㊦-3-7 職員種別の傾向

職員種別について、「看護師」が最も多く、10件(76.9%)であり、次いで「介護職員」が2件(15.4%)、「その他」が1件(7.7%)と続いている。

表㊦-3-7 職員種別

	介護職員	ケアマネ	看護師	医師	相談員	ホームヘルパー	その他
件数	2	0	10	0	0	0	1
割合	15.40%	0.00%	76.90%	0.00%	0.00%	0.00%	7.70%
	介護・看護職	複数職種	合計				
	0	0	13				
	0.00%	0.00%	100.00%				

図㊦-3-7 職員種別



㉗-3-8 学生種別の傾向

研究の内容について学生があるのは2件のみであり、種別は「大学生」、「専門学校・短大生」がそれぞれ1件(50.0%)である。

表㉗-3-8 学生種別

	大学生	専門学校・ 短大生	高校生	中学生	小学生	その他	合計
件数	1	1	0	0	0	0	2
割合	50.00%	50.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%

図㉗-3-8 学生種別

